

平成24年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年10月26日

上場会社名 アートsparkホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3663 URL http://www.artspark.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 村上 匡人
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役業務管理部長 (氏名) 星 和彦 (TEL) 03 (3710) 2985
 四半期報告書提出予定日 平成24年11月9日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年12月期第3四半期の連結業績 (平成24年4月2日～平成24年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年12月期第3四半期	1,726	—	△442	—	△459	—	△580	—
23年12月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 24年12月期第3四半期 △529百万円(—%) 23年12月期第3四半期 一百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年12月期第3四半期	△87 49	— —
23年12月期第3四半期	— —	— —

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年12月期第3四半期	4,770	3,059	63.5
23年12月期	—	—	—

(参考) 自己資本 24年12月期第3四半期 3,030百万円 23年12月期 一百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年12月期	— —	— —	— —	— —	— —
24年12月期	— —	0 00	— —	— —	— —
24年12月期(予想)	— —	— —	— —	0 00	0 00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年12月期の連結業績予想 (平成24年4月2日～平成24年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,810	—	△687	—	△717	—	△780	—	△117 54

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

24年12月期3Q	6,635,570株	23年12月期	－株
24年12月期3Q	145株	23年12月期	－株
24年12月期3Q	6,635,496株	23年12月期3Q	－株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 当社は、平成24年4月2日に株式会社セルシスと株式会社エイチアイが経営統合し、両社を完全子会社とする共同持株会社として設立されました。この結果、当連結会計年度が第1期となるため、前期実績及び前年四半期実績はありません。
- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) セグメント情報等	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間（平成24年4月2日～平成24年9月30日）におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興需要などを背景に回復の兆しが見えてきたものの、欧州金融危機の再燃や中国地政学的リスクの問題、長期化する円高や消費税増税法案可決による国内景気、個人消費やデフレ等への影響から、景気の先行は依然不透明な状況が続いております。

当社グループを取り巻く事業環境を見渡しますと、パーソナルコンピューター以外でのポータブルなネット接続機器の多様化や、デジタルカメラをはじめとする家電、車載機器、電子看板、店舗での操作端末など実用機器でのグラフィクス表示機能の技術が著しく進歩しており、一般への普及も進んでおります。今後、デジタルグラフィクスの制作から利用に関する技術とサービスや、利便性の高いデジタル機器のユーザーインターフェースの提供は、より一層社会的に重要な基幹活動の一つになっていくものと予想されます。

このような状況の下、当社グループは「デジタル“ものづくり”」の応援と支援を経営理念に掲げ、デジタルによるコンテンツの制作と利用が一般に普及する社会において、引き続き重要なポジションを担い続けられるよう、当社グループの強みであるグラフィクス関連技術とサービス開発の相乗効果を最大限に活かした事業活動を推進しております。

携帯端末市場の中心がスマートフォンへと急速に移行していく中で、当社グループは事業モデルが転換期にさしかかってきており、かかる変化を新たな成長機会として捉え、中長期的に企業価値を継続的に向上させる目的で、平成24年12月期を翌期以降の収益改善に直結するための既存事業と資産の再評価の年と位置付けております。今後の当社グループの成長とグループ経営基盤の強化に不可欠なものと考え、一時的に収益を圧迫する事となりますが、これらの施策を優先的に実施してまいります。

その結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間の売上高は1,726,447千円、営業損益は442,278千円の営業損失となりました。

経常損益につきましては、持分法による投資損失等の発生により459,436千円の経常損失、純損益につきましては、負ののれんの発生等により特別利益413,052千円を計上しましたが、ソフトウェア資産の見直しによる減損損失、投資有価証券評価損等の特別損失445,751千円、税効果会計に係る繰延税金資産の取崩し等により法人税等88,822千円を計上し、580,540千円の四半期純損失となりました。

事業別セグメントにつきましては、以下のとおりであります。

<電子書籍サポート事業>

電子書籍サポート事業の中心である携帯電話市場におきましては、平成24年9月末で国内携帯電話加入契約数が1億2,735万台（「EMOBILE」を除く）となっております。（社団法人電気通信事業者協会発表「携帯電話・PHS契約数」より）

また、スマートフォンの状況は、2011年度の出荷台数が前年比2.8倍の2,417万台（2010年度は855万台）に拡大し、総出荷台数に対するスマートフォン出荷台数比率が56.6%（2010年度は22.7%）となり、2012年度については携帯電話総出荷台数予測4,060万台のうちスマートフォンは2,790万台、68.7%を占めると予測されております。（株式会社MM総研発表より）

このような経営環境の中、スマートフォン向けコンテンツ市場において、平成23年11月よりNTTドコモによるポータルサイト「dメニュー」が開始される等、スマートフォンでのビジネス環境は整いつつあり、Android端末向け総合電子書籍ビューア「BS Reader」のダウンロード数は、平成24年9月末で150万ダウンロードとなっております。

また、「BS Reader」をオープンな国際規格であるEPUB形式に対応させる等、オープンフォーマットへの対応も進めております。

以上の結果、総合電子書籍ビューア「BS Reader」を軸として推進する電子書籍サポート事業につきましては、売上高は674,995千円、営業利益は37,624千円となりました。

<クリエイターサポート事業>

クリエイターをトータルに支援するクリエイターサポート事業におきましては、これまでの研究開発投資の成果として、新たな描画エンジン「TRIGRAV」を搭載したグラフィクスコンテンツ制作アプリケーションを、初心者からプロフェッショナルに至る広いグラフィクス・クリエイターのニーズを満たす機能を備えた「CLIP STUDIO PAINT PRO」パッケージ版として平成24年7月にリリースいたしました。また、3Dキャラクターを操作するために「QUMA」技術を利用して開発された人型入力デバイス「QUMARION」の出荷を7月から開始しており、今後も販売に注力してまいります。

インターネットを通じてイラスト、マンガ、アニメ、小説を制作するクリエイターの創作活動をトータルに支援するサイト「CLIP」において、平成24年9月末時点の登録者数は23万人となっております。

これらグラフィクスコンテンツの制作支援ツール、デバイス、サービスの提供を通じて、グラフィクスコンテンツサービスの制作・流通を支援する基幹プラットフォームとしての収益化に引き続き注力してまいります。

以上の結果、売上高は326,379千円となりましたが、サービス拡充に向け積極的にシステム開発を行ったことにより営業損失は310,996千円となりました。

<ミドルウェア事業>

デジタル家電機器向けにUI（ユーザーインターフェース）ソリューション提供を行うミドルウェア事業におきましては、車載機、業務用カラオケ機器等を中心に事業を拡大してまいりました。当連結累計期間においては、プリンターやSmartTV関連のセットトップボックス機器等における受託開発も堅調で、売上高を伸ばしております。更には、これらのデジタル機器と連携するスマートフォン側のUIソリューションについても一連の統一的な操作感に対するニーズが強まっており、受注機会を増やしております。

以上の結果、売上高は545,907千円となりましたが、販売管理費を吸収しきれず、営業損失は87,522千円となりました。

<アプリケーション事業>

ミドルウェア事業で培ったノウハウをサービス領域に提供するアプリケーション事業におきましては、通信キャリアやサービス事業者、ゲーム開発会社等からのサービス・コンテンツの開発を受託すると共に、サービスの運用受託やサービス事業者との共同運営等を継続的に行い、収益性の向上に努めております。当連結累計期間においては、運用受託の割合を増やす施策をとるとともに、ミドルウェア事業が提供するUIソリューションとの関連性が高いアプリケーションの受託開発売上の計上等がありました。

以上の結果、売上高は179,164千円となりましたが、販売管理費を吸収できなかったことに加え、ゲームコンテンツの受託開発案件において受注損失引当金6,872千円を計上したことから、営業損失は140,886千円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、4,770,594千円となりました。うち、流動資産は2,516,808千円であり、主な内容は現金及び預金1,582,305千円であります。また、固定資産は2,242,828千円であり、主な内容はソフトウェア1,327,807千円であります。

当第3四半期連結会計期間末における総負債は、1,711,519千円となりました。うち、流動負債は1,025,896千円であり、固定負債は685,623千円であります。

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、3,059,074千円となりました。なお、自己資本比率は、63.5%となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成24年12月期の連結業績予想につきましては、平成24年5月11日に発表いたしました業績予想から変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法としております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

当社グループは法人税法の改正に伴い、第2四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以降に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、この変更による当第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

当第3四半期連結会計期間
 (平成24年9月30日)

資産の部	
流動資産	
現金及び預金	1,582,305
売掛金	572,169
製品	54,081
仕掛品	75,309
原材料及び貯蔵品	123,495
その他	126,572
貸倒引当金	△17,125
流動資産合計	2,516,808
固定資産	
有形固定資産	
建物	112,413
減価償却累計額	△68,675
建物(純額)	43,737
工具、器具及び備品	286,818
減価償却累計額	△251,204
工具、器具及び備品(純額)	35,613
有形固定資産合計	79,350
無形固定資産	
ソフトウェア	1,327,807
ソフトウェア仮勘定	50,223
のれん	26,271
その他	31,339
無形固定資産合計	1,435,641
投資その他の資産	
投資有価証券	508,104
敷金及び保証金	202,302
その他	17,427
投資その他の資産合計	727,835
固定資産合計	2,242,828
繰延資産	
創立費	10,957
繰延資産合計	10,957
資産合計	4,770,594

(単位：千円)

当第3四半期連結会計期間
(平成24年9月30日)

負債の部	
流動負債	
買掛金	176,207
短期借入金	290,380
1年内返済予定の長期借入金	250,656
未払法人税等	25,726
返品調整引当金	2,941
受注損失引当金	6,872
その他	273,112
流動負債合計	1,025,896
固定負債	
長期借入金	542,787
退職給付引当金	74,279
繰延税金負債	68,557
固定負債合計	685,623
負債合計	1,711,519
純資産の部	
株主資本	
資本金	1,000,000
資本剰余金	1,867,600
利益剰余金	112,299
自己株式	△37
株主資本合計	2,979,861
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	50,322
その他の包括利益累計額合計	50,322
新株予約権	26,158
少数株主持分	2,731
純資産合計	3,059,074
負債純資産合計	4,770,594

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月2日 至平成24年9月30日)
売上高	1,726,447
売上原価	1,457,837
売上総利益	268,610
返品調整引当金戻入額	7,086
返品調整引当金繰入額	2,941
差引売上総利益	272,754
販売費及び一般管理費	715,033
営業損失(△)	△442,278
営業外収益	
受取利息	611
受取配当金	5,000
その他	686
営業外収益合計	6,298
営業外費用	
支払利息	5,857
持分法による投資損失	11,646
その他	5,953
営業外費用合計	23,456
経常損失(△)	△459,436
特別利益	
負ののれん発生益	408,113
その他	4,939
特別利益合計	413,052
特別損失	
減損損失	394,407
投資有価証券評価損	43,026
その他	8,317
特別損失合計	445,751
税金等調整前四半期純損失(△)	△492,135
法人税等	88,822
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△580,958
少数株主損失(△)	△417
四半期純損失(△)	△580,540

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

		当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月2日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)		△580,958
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金		51,833
その他の包括利益合計		51,833
四半期包括利益		△529,125
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益		△528,707
少数株主に係る四半期包括利益		△417

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

当第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月2日 至 平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額(注) 2
	電子書籍サ ポート事業	クリエイタ ーサポート 事業	ミドルウェ ア事業	アプリケー ション事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	674,995	326,379	545,907	179,164	1,726,447	—	1,726,447
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	1,708	5,606	6,037	13,352	△13,352	—
計	674,995	328,087	551,514	185,202	1,739,799	△13,352	1,726,447
セグメント利益又はセグメン ト損失(△)	37,624	△310,996	△87,522	△140,886	△501,780	59,501	△442,278

(注) 1 セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない
全社収益、全社費用の純額であります。

2 セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行って
おります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成24年4月2日に株式会社セルシスと株式会社エイチアイの共同株式移転の方法による持
株会社として設立されました。この結果、当第3四半期連結会計期間末において、資本金は1,000,000
千円、資本剰余金は1,867,600千円、利益剰余金は112,299千円、自己株式は△37千円となっております。
なお、発行済株式総数は、6,635,570株です。